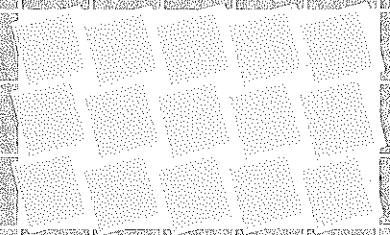


YAMAHA PortaSound PCS-500

Playcard System



取扱説明書

演奏を始める前に

ごあいさつ

このたびは、ヤマハポータサウンドPCS-500をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

PCS-500は、新しい音楽の楽しみ方を見つける自由な鍵盤楽器。楽器づくりの経験ゆたかなヤマハが、最新の電子技術を駆使してつくりあげました。ポータサウンドの高級モデルとしての充実した表現機能に加え、磁気テープを採用したプレイカードシステムによって、聴く・弾く・歌う——と幅広くお楽しみいただけます。さらに、演奏を記憶させることができるミュージックプログラマーなど、コンパクトなボディに数多くの機能を装備しました。

本書では、PCS-500を充分お楽しみいただけるよう、正しい取扱い方をご説明しています。実際に操作しながら、ぜひご一読ください。

目次

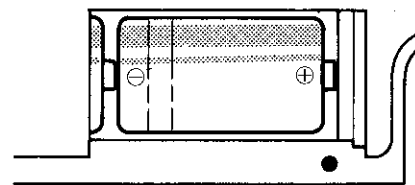
	(ページ)
演奏を始める前に.....	1
これがプレイカードシステム	
●オートプレイ.....	2
●フリーテンポ.....	4
●メロディーキャンセル.....	4
●フレーズリピート.....	5
トライ・ザ・キーボード!	
●オーケストラ.....	6
●リズム.....	7
●オートベースコード.....	8
●ミュージックプログラマー.....	10
〈プレイングノート〉.....	11
取扱い上の注意.....	12
故障と誤まりやすい現象.....	13
付属端子とオプション.....	14
仕様.....	16
アフターサービスと保証.....	17

電源について

PCS-500の電源は、電池、家庭用コンセント、カーバッテリーの3つを使用することができます。

●電池の入れ方

まず、本体裏面にあるケースのふたをとります。単2の乾電池を一列に6個入れます。このとき、⊕⊖の方向をまちがえないようご注意ください。



電源スイッチを入れたとき、スイッチの上のパイロットランプが点滅していたら、電池がなくなりはじめています。全部新しいものと取りかえてください。

●家庭用コンセント、カーバッテリーを使用するときは、専用のアダプターを付属端子に接続します。(接続方法については、14ページをご参照ください。)

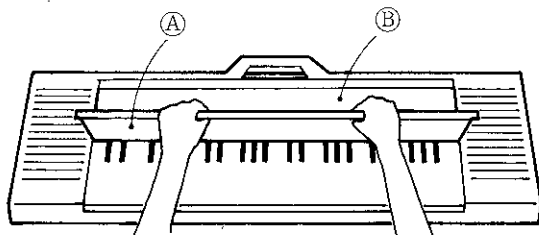
●カーアダプター(別売)は、12Vマイナスアース車専用です。接続する前に、車のバッテリーが12Vのものであることを必ず確認してください。

※ご使用にあたっては、12ページの「取扱い上の注意」をお読みください。

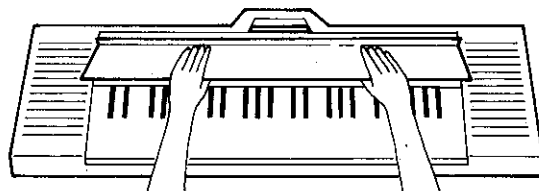
ふたの開け方

PCS-500のふたは、以下の手順で開けてください。

- ① ふた(Aの部分)の両端を持って開け、(Bの部分)の上にたたみます。



- ② (A)の部分をたたんだまま、ふた全体を開けます。

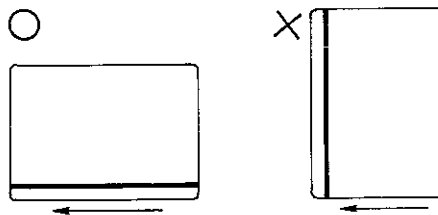


ふたを閉める場合は、逆の手順になります。

プレイカードの取扱いについて

PCS-500のプレイカードはいわばレコードと同じ。大切に扱きましょう。

- 磁気テープ(黒い所)を折ったり、傷つけないでください。(まちがえた方向に入れると傷がつくことがあります。)

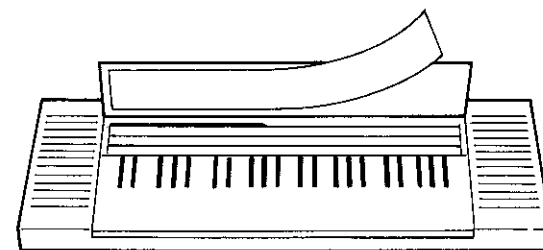


- スピーカー、アンプ、テレビの近くなど強い磁場は禁物。データ消滅の場合もあります。
- 磁気テープには直接触れないでください。
- 水やアルコールに注意。
- 汚れたら、やわらかい布で軽くふきとりましょう。
- シンナーやベンジンを近づけないでください。
- 高温多湿、直射日光に注意。
- 使わないときは専用のビニールへ入れておきましょう。

プレイカードは一定のスピードで、すばやく右から左へスライドさせてください。

和文シートについて

PCS-500には、和文による各部の名称と、簡単な説明が書かれたシートがついています。和文のほうが便利という方は、下図の位置に貼ってお使いください。

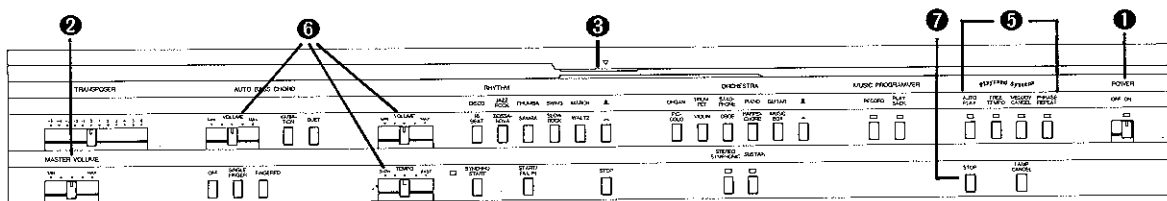


これがプレイカードシステム

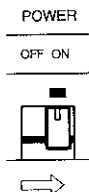
プレイカードシステムは、プレイカードの磁気テープのデータを、本体のカードリーダーが読みとり記憶(メモリー)し、本体のスピーカーを通して、メロディーにオブリガート(助奏)と伴奏などのついた曲を再生するシステムのことをいいます。

オートプレイ

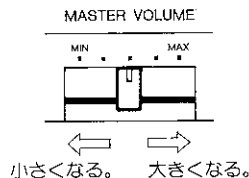
カードのプレイを聴いてみましょう。



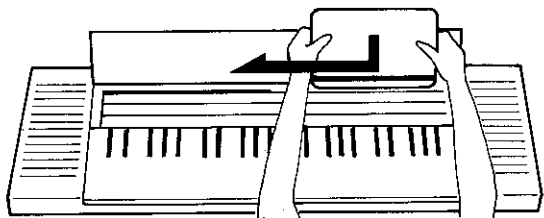
① 電源スイッチをON。



② マスターボリュームをセット。



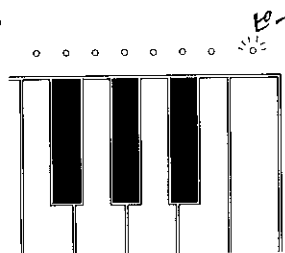
③ プレイカードをカードリーダーに通す。



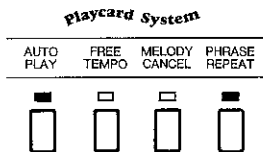
プレイカードをシートカバーから取り出し、磁気テープの部分のカードリーダーのみぞに対して水平に入れ、右から左へスライドします。

④ 信号音を確認。

カードリーダーがデータを読みとると、インジケータランプの点灯が右端まで走行し、「ピー」という信号音が鳴ります。



⑤ カードの演奏が自動的にスタート。



オートプレイとフレーズリピートが自動的にONされ、メロディーにリズム、伴奏、オブリガートのついたモデル演奏が再生されます。

⑥ 音量とテンポを調節。

テンポを好みの速さにしたいときは黄色のテンポ・レバーで調節します。また、リズムの音量をあげるときは黄色のリズム・ボリューム、伴奏の音量をあげるときは青色のオートベースコード・ボリュームで調節します。(いずれも最小の位置では聴こえません。)

⑦ ストップ(ピンクのボタン)を押せば演奏は停止。



もう一度オートプレイのボタンをONすれば、自動演奏がスタートします。また、フレーズリピートのボタンを押してOFFにすれば、曲が終わると自動的にストップします。

★両面に磁気テープがあるカードは、両面ともスライドさせます。片面のスライドが終わると信号音が4回鳴りますから、もう一方の面をスライドさせてください。

★一度本体に読み取らせたデータは、電源を切っても、約5日間以上消えずに記憶されています。また、別のカードを通すと、前のカードのデータは自動的にキャンセルされます。

★テンポの調節は曲がスタートしてから行ってください。また、テンポを調節するときは、一度レバーを左右に動かしてください。

●カード演奏に変化を。

オーケストラ音色を変えて。

プレイカードの裏面にはサウンドガイドとして、その曲に使われている音色やリズムが書いてあります。プレイカードをセットしたら好きな音色に変えてみましょう。緑色のステレオシンフォニックやサスティンのボタンもONすることができます。

★カードによってはサスティンもセットされており、このときサスティンボタンは自動的にONになります。

リズムを変えて。

リズムパターンも自由にかえることができます。プレイカードをセットした後、リズムセクターを押してください。(ただし、4拍子の曲にワルツをセットしてもメロディーは4拍子のまま進みます。) また、曲の途中で黄色のスタート/フィルインのボタンを押してみましょう。曲に変化がつかます。

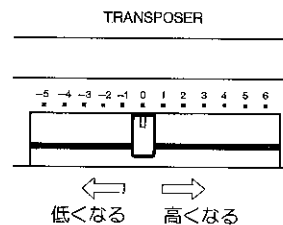
伴奏に変化を。

オートベースコードの青色のバリエーションボタンをONすれば、カードの伴奏を変化させることができます。また、青色のデュエットボタンを押せば、メロディーに厚みがつきます。

●カードをバックに歌ってみましょう。

カードの演奏を聴いて曲の構成をつかんだら、プレイカードに合わせて歌ってみましょう。

トランスポーザーで自分のキーに合わせる。



プレイカードで再生される曲や、鍵盤で演奏するときのキー(音程)を半音ずつ変えることができます。曲の途中でも調整OK! また、音の位置を移動し、やさしいハ長調の弾き方でメロディー演奏が楽しめます。

★オートプレイとメロディーキャンセルを同時にONすると、メロディーの音量がオートプレイ時に比べて小さく再生され、カラオケに最適です。

フリーテンポ

自分のテンポでメロディーを。

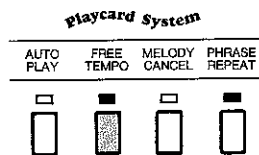
① まずはカードのセット。(2ページ参照)

プレイカードの中央を両手で持って一定のスピードですばやく右から左へ水平にスライドさせます。
(自動的にカード演奏がはじまります。)

② ストップをON。

最後まで曲を聴かないときは、ピンクのストップボタンで曲を止めます。

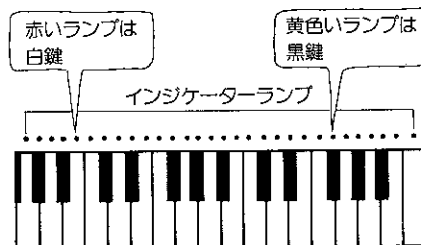
③ フリーテンポ(ピンクのボタン)をON。



自動的にカード演奏が始まりますが、前奏が終わると曲が止まり、鍵盤のインジケータランプがひとつだけ点灯します。

④ ランプを追いかけましょう。

ランプの鍵盤を弾いてみてください。ホラ、別のランプがつきますネ。こんなふうに次々にランプが弾く鍵盤を知らせてくれ、あなたのメロディー演奏に伴奏がついてきます。



メロディーキャンセル

一定のテンポでメロディーを。

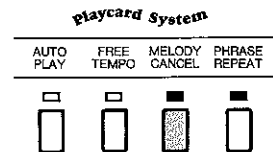
① まずはカードのセット。(2ページ参照)

プレイカードの中央を両手で持って一定のスピードですばやく右から左へ水平にスライドさせます。
(自動的にカード演奏がはじまります。)

② ストップをON。

最後まで曲を聴かないときは、ピンクのストップボタンで曲を止めます。

③ メロディーキャンセル(ピンクのボタン)をON。



自動的にカード演奏が始まりますが、メロディーは演奏されません。

フレーズリピート

くり返しフレーズ練習ができます。

- ④ 伴奏とランプに合わせてメロディーを弾いてみましょう。

一定のテンポでインジケータランプがメロディーの位置を指示します。はじめのうちは、テンポをおそめにセットしてじっくり練習しましょう。

★メロディーキャンセルをONした後に、オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードをONすると、伴奏もキャンセルされて再生されます。両手で弾く練習に最適です。

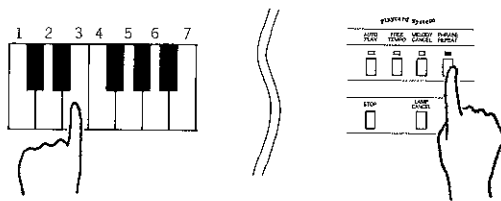
- ① いったんカード演奏をストップ。

再生しながらフレーズリピートの指定はできません。ストップボタンを押して、いったん演奏をストップさせてください。

- ② リピートさせるフレーズを選ぶ。

プレイカードの五線譜の上にフレーズナンバーが入っています。リピートしたい部分を選んでください。

- ③ フレーズリピート(ピンクのボタン)を押したまま、鍵盤を押してフレーズを指定。



鍵盤(左から白鍵20鍵と右端の白鍵)の上にながされて
いるのがフレーズナンバーです。フレーズリピートを
押したまま、指定するフレーズナンバーの鍵盤を押し
ます。たとえば、**[3]**のフレーズをリピートしたいとき

には**[3]**の鍵盤を押します。また、**[3]**から**[8]**までをリピ
ートしたいときには、フレーズリピートを押したまま、
[3]と**[8]**の鍵盤を押します。

- ④ 曲をスタート。

オートプレイ、フリーテンポ、メロディーキャンセル
のいずれかをランプが点灯するまで押し続けてくださ
い。指定したフレーズがくり返し再生されます。(フレ
ーズリピートのボタンをもう一度押すと、リピートは
キャンセルされます。)

★一曲ぜんぶをくり返したいときは、フレーズリピートの
ボタンを押したまま、右端の*マークの鍵盤を押します。
(フルリピート)

- ランプキャンセル



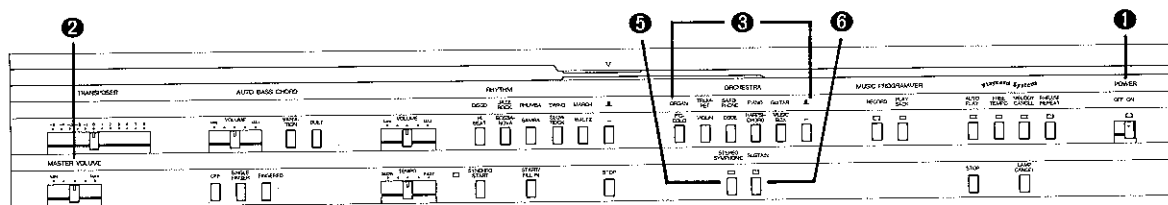
このピンクのボタンを押すと、メロディー
を示すインジケータランプがキャンセル
されます。メロディーキャンセルで弾ける
ようになったら、ランプを消して、楽譜を
見ながらメロディーを弾いてみましょう。

トライ・ザ・キーボード!

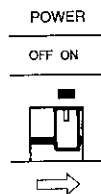
PCS-500は、ポータサウンドの高級モデルとして、充実した音楽表現機能を持っています。ここでは、プレイカードシステムを使わない基本的な使い方をご紹介します。

オーケストラ

好きな音色を選んで音を出してみましょう。

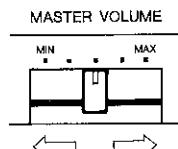


① 電源スイッチをON。



パイロットランプが点灯します。

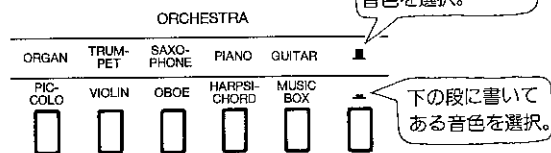
② マスターボリュームをセット。



小さくなる。 大きくなる。

このグレーのレバーで全体の音量が調節できます。

③ 音色セレクター(緑色のボタン)から、ひとつ選んでON。



それぞれのボタンの上には2つの楽器名が書かれていますが、右端の上下セレクター(白いボタン)を押していないときは上段の音色に、押したときは下段の音色になります。(もういちど押すと上段の音色に戻ります。)

④ 鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ音色の音がでてきます。ほかの音色でも弾いてみましょう。

★シングルフィンガーまたはフィンガードのボタンがONになっていると、オートベースコード用鍵盤部では、選んだ音色はできません。(8ページ参照)

★同時に7つの音まで鳴らせます。

⑤ ステレオシンフォニックで音に拡がりをもたせよう。



このボタンをONすると、音に独特の拡がり生まれ、立体的なステレオ効果をもったサウンドになります。ボタンをもう一度押すとOFFになります。

⑥ サスティンで音に余韻を。

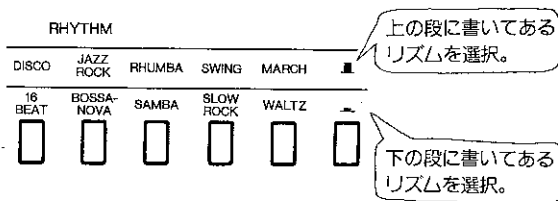


このボタンをONすると、鍵盤から指を離れたあとに音に余韻がつき、自然に消えていきます。ボタンをもう一度押すとOFFになります。

リズム

ドラムをくわえてリズムックプレイ。

① リズムセクター(黄色のボタン)をひとつON。



リズムセクターは、音色セクターと同様に、右側の上下セクター(白いボタン)で、上段、下段のリズムを選んでください。ワルツは3拍子、そのほかのリズムは4拍子です。

② スタート/フィルインまたはシンクロスタートをON。

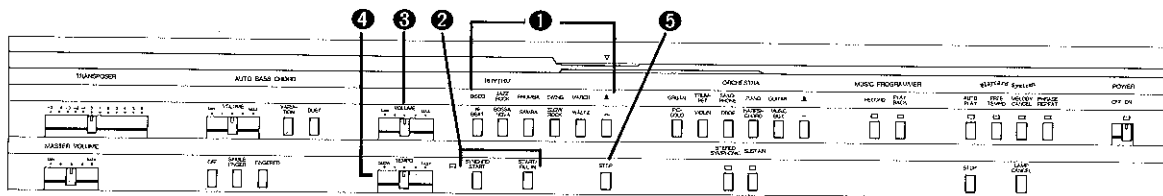


スタート/フィルイン

ボタンを押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

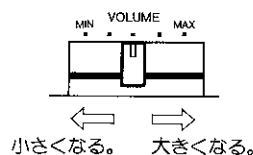
シンクロスタート

オートベースコード用鍵盤を押すと同時に選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。赤いランプでテン

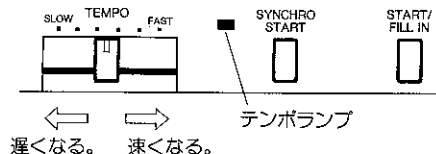


ポを確認して、メロディーとリズムを同時にスタートさせることができます。

③ リズム・ボリュームで音量を調節。



④ テンポ・レバーで速さを調節。



テンポランプ

テンポランプは、リズムがスタートしているとき、次のように点灯し、リズムのテンポと同時に何拍目であるかを確認することができます。

- 1 拍目 — 明るく点灯
- 2 拍目 — 暗く点灯
- 3 拍目 — やや明るく点灯
- 4 拍目 — 消灯

ワルツの場合は1拍目(明るく)、2拍目(暗く)、3拍目(消灯)となります。また、シンクロスタートをONして、まだリズムをスタートさせていないときは、1拍ごとに点灯します。

⑤ リズムを止めたいときは、

ストップ(黄色のボタン)をON。



- ★スタート後にシンクロスタートを押すとリズムが止まり、シンクロスタート状態(スタンバイの状態)になります。
- ★同時に2つ以上のリズムをONしてもリズムは合成されません。

● フィルインでリズムに変化を。

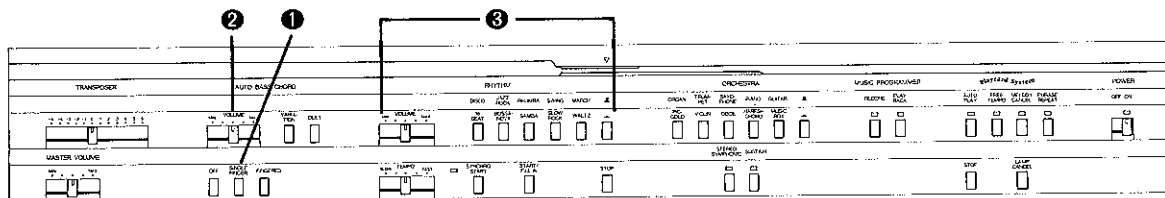
リズムがスタートしているとき、スタート/フィルインのボタンを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズムパターンに切り替わります。曲のなかの要所で使うと効果的です。



- ★2小節以上フィルインに切り替えたいときは、ボタンを押し続けてください。

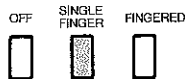
オートベースコード

プレイカードがなくても伴奏はオートプレイ。

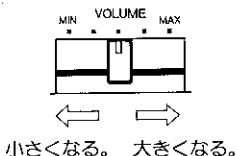


シングルフィンガー 指一本で自動伴奏。

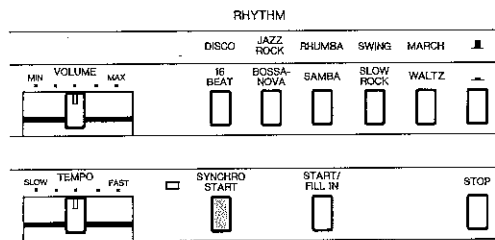
① シングルフィンガー(青色のボタン)をON。



② オートベースコード・ボリュームをセット。



③ リズムをセット。



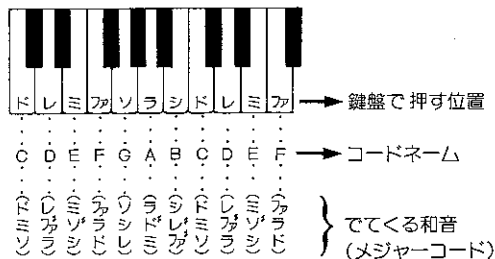
リズムパターンを選び、ボリュームとテンポをセットしてから、シンクロススタートをONします。

④ オートベースコード用鍵盤をどれかひとつおさえる。

左端の19鍵のうち、ひとつをおさえてみましょう。和音とベース音がリズムにのってでてきます。一度おさえると記憶(メモリー)されますので、鍵盤から指を離しても、同じ伴奏が繰り返えされます。

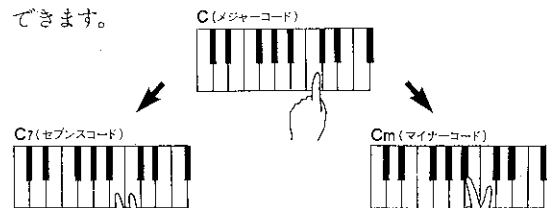
⑤ プレイカードの曲を弾いてみましょう。

プレイカードの楽譜にはコードネーム(和音の名前)が入っています。次の図を参考に、コードとおさえる鍵盤の位置を確認しましょう。



● セブンスコード、マイナーコードなどの出し方。

伴奏はメジャーコードだけに限らず、例えば[G7]のようなセブンスコード、[Am]のようなマイナーコードもよく使われます。これらのコードは、下図のように2つおよび3つの鍵盤を同時におさえることで出すことができます。



メジャーコードで押した鍵盤より左側の白鍵を同時に押す。(どれでもよい)

メジャーコードで押した鍵盤より左側の黒鍵を同時に押す。(どれでもよい)

Cm7(マイナーセブンスコード)



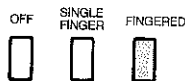
メジャーコードで押した鍵盤より左側の白鍵と黒鍵を同時に押す。(どれでもよい)

※ #, b がついていたら、音符についている場合と同じように、半音上げる(#)半音下げる(b)ようにします。



フィンガード コード(和音)をおさえて自動伴奏。

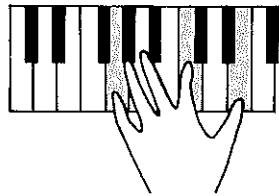
- ① フィンガード(青色のボタン)をON。



- ② オートベースコード・ボリュームをセット。

- ③ リズムをセット。

- ④ オートベースコード用鍵盤部でコード(和音)をおさえます。



コードとそれに応じたベース音がリズムによってでてきます。

★おさえられた和音からコードの種類を判別し、ベースとコードバックイングを自動的に行います。判別できるコードの種類は次の8種類です。

(例：C、Cm、C7、Cm7、Cmaj7、Cdim、Caug、Cm7^{b5})

- オフで自動伴奏をキャンセル。

オートベースコードを使わないときは、オフのボタンを押してください。

★リズムをセットせずにオートベースコードを使うと、コードとベース音の伴奏はリズムに乗らない音(持続音)になります。曲によっては、この方が効果的な伴奏ができます。また、リズムに合わせづらいときも、持続音の伴奏で練習するとやさしくできます。

★自動伴奏の音色は、オーケストラの音色セレクターで選んだ音色に関係ありません。

★コードを変えるとき、指を離さずにレガート(なめらかに)で動かすと、コードが変わることがあります。一度鍵盤から離してから押してください。

★オートベースコードを使って伴奏するとき、メロディー用鍵盤部では、同時に3音まで鳴らせます。

- バリエーションで伴奏に変化を。



このボタンをONすると、コード伴奏とベース伴奏のパターンと音色が変化します。変化のしかたは、リズムパターンごとに異なります。

★フィルインのパターンもバリエーションのON・OFFによって変わります。

- デュエットでメロディーに厚みを。



オートベースコードを使っているとき、このボタンをONすると、自動的にコードの中の1音がメロディーに加わり、厚みのある重音演奏ができます。

★デュエットはオートベースコードと連動して機能しますから、必ずシングルフィンガーかフィンガードと一緒にセットしてください。

★デュエットを使っているとき、メロディー用鍵盤部では、同時に2音まで鳴らせます。

ミュージックプログラマー

演奏を記憶させて楽々プレイ。

レコード(記憶)

両手で弾くのが難しい曲も片手ずつにわければカンタン。まず、伴奏を記憶させてみましょう。

① 曲に合ったリズムを選ぶ。

テンポは再生のとき調節できますから、遅めにセットしてもかまいません。

② レコード(グレーのボタン)をON。

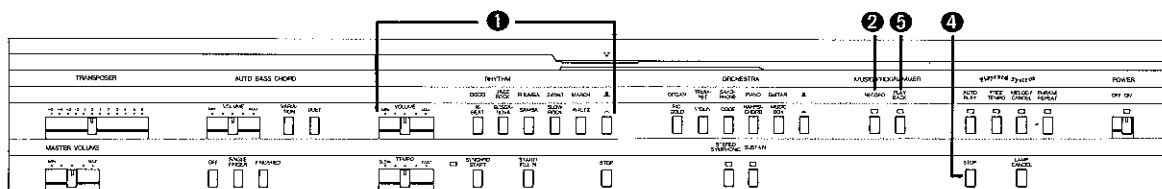


自動的にリズムがスタートします。

③ シングルフィンガーで伴奏を記憶。

指一本のやり方でオートベースコード用鍵盤部をおさえて、伴奏をプログラムしましょう。(8ページを参照)

④ 必要な長さを記憶させたら、プレイカードシステムのストップ(ピンクのボタン)を押す。



プレイバック(再生)

記憶させた伴奏を再生してみましょう。

⑤ プレイバック(グレーのボタン)をON。



記憶させた伴奏が自動的にスタートします。

⑥ 伴奏に合わせてメロディーを弾きましょう。

記憶をストップさせたところまでくると、再生は自動的に終わります。くり返し再生したいときは、もう一度プレイバックのボタンをONしてください。

★再生のとき最初からタイミングよくスタートさせるには、レコード時に2小節(または4小節)リズムだけを鳴らし、3小節目(または5小節目)から鍵盤を押します。

★伴奏を記憶させているとき、フィルインのボタンを押すと、リズムだけの小節をプログラムすることができます。(フィルインはプログラムされません。)

★再生時にリズムを変えることもできます。その場合、コード進行はそのままで、リズムと伴奏のパターンだけが変わります。また、テンポや音量も自由に変えることができます。

★ミュージックプログラマーを使っているときは、オートベースコードのオフのボタンが押されていても、伴奏はシングルフィンガーになります。

★フィンガードのボタンを押せば、フィンガードで伴奏を記憶させることもできます。

★ミュージックプログラマーを使っているときは、リズムをストップさせることはできません。

★ミュージックプログラマー再生後は、オートベースコードがOFFになっている場合でもオーケストラは3音までしか発音しません。シングルフィンガーかフィンガードをいったんON/OFFしてください。

●メロディーを記憶させてみましょう。

伴奏を記憶させるときと同じように、リズムを選び、レコードのボタンをONします。リズムに合わせてメロディーを弾けば記憶されます。再生の手順などは、伴奏の場合と同じで、再生時に音色やテンポ、音量などを変えることもできます。

★伴奏とメロディーを一緒に記憶・再生させることもできます。

★メロディーは単音で記憶させてください。2音以上同時に弾くと、最高音だけが記憶・再生されます。

★レコードを押しながらオートプレイまたはメロディーキャンセルをONすると、プレイカードの伴奏で自分のメロディーを記憶させることができます。再生時には、プレイバックを押しながらオートプレイまたはメロディーキャンセルを押します。自分の演奏を確認してみましょう。

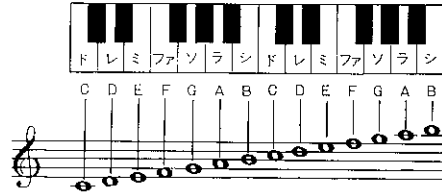
★ミュージックプログラマーに記憶させた演奏は、電源を切っても、約5日間以上消えずに記憶されています。

★ミュージックプログラマーのメモリー容量は、メロディーが4分音符で最大700音符(奏法により350音符程度までおちることがあります)、コードが2分音符で弾いた場合、約100コードです。なお、どちらかのメモリーがフルになるとレコードがストップします。

〈プレイングノート〉

●五線譜の読み方は。

はじめに、鍵盤と五線譜の関係を示してみると……



●音符と休符の長さは。

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分休符と比較した長さ
全音符	↑↑↑↑ 4つ分のぼす	—	よよよよ 4つ分休む
付点2分音符	↑↑↑ 3つ分のぼす	—	よよよ 3つ分休む
2分音符	↑↑ 2つ分のぼす	—	よよ 2つ分休む
4分音符	↑	よ	よ 4分休む
8分音符	♩(♩♩=↑) 半分にする	♪	♪(♪♪=よ) 半分休む
16分音符	♫(♫♫♫=↑) 4等分する	♫	♫(♫♫♫=よ) 4等分する
3連音符	♩♩♩ 3連音符	♩♩♩	♩♩♩ (は)を3等分

●プレイカードに使われている記号を覚えましょう。

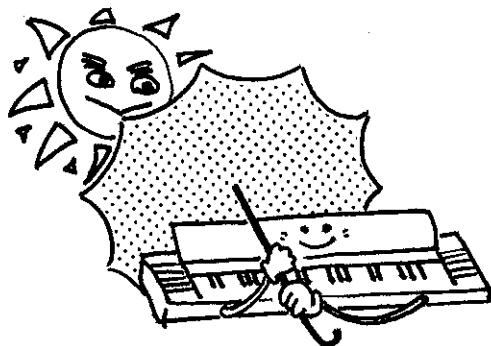
記号とよみ方	意味	記号とよみ方	意味
# シャープ	半音あげる	: リピート	くりかえし
b フラット	半音さげる	1 2 1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあと2へ。
♮ ナチュラル	もとの音にもどす	D.C. ダカーボ	最初から。 Fine D.C.
♪ タイ	音を続ける	D.S. ダルセーニョ	記号から Fine D.S.
— スラー	なめらかに	♯ Coda コーダ	くりかえしのあとCodaへ。
∩ フェルマータ	その音をのぼす		
Tacet タセット	伴奏を休む		
Fine フィーネ	おわり		

取扱い上の注意

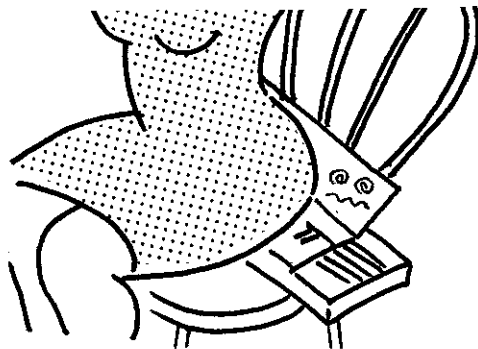
PCS-500をながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

- 電池が消耗すると、雑音を生じたり、誤動作の原因となることがあります。電池を全部新しいものと取りかえてください。
- カードリーダーや音量レバー、鍵盤などのすきまに、ホコリや異物、特に、ヘアピン、針、硬貨などの金属物が入らないようお気をつけください。異物が入りますと、故障の原因となることがあります。また、ほこりの多い場所での使用もさけてください。
- PCS-500のスピーカーには、磁石を使用していますので、プレイカードやキャッシュカードを近づけすぎないようにしてください。
- ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。電源が入ったまま長時間放置しておくと、故障の原因となることがあります。また、長い間使わないときは、電池を本体からぬいておいてください。電源アダプターの場合も、使わないときは、プラグをぬいておいてください。

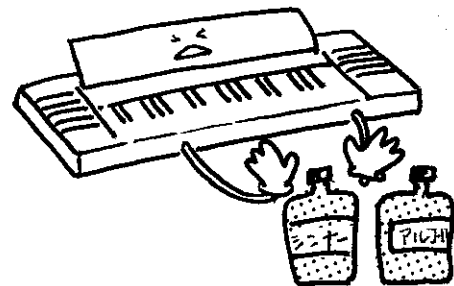
- 特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
- 強い直射日光に長時間さらすことはさけてください。



- 過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。



- 暖房器具のそばに置いたり、日中、車内に長時間放置しておくことはさけてください。車の窓を閉めきっているとき、直射日光が当たっていると、車内の温度は80℃以上にもなります。極端に温度が高い場所(60℃以上)に置いておくと本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。
- 本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でカラぶきしてください。よこれの日立つときは、少し水で湿らせた布でふいてください。アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。



- ホコリや衝撃から守るため、ご使用にならないときは、ふたを閉めてください。

故障と誤まりやすい現象

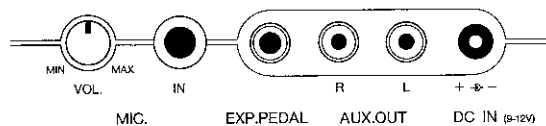
現象	原因と解決法
音色セクターで選んだ音色が出ない。	リズムとオートベースコードを同時に使うとき、伴奏の音色は、音色セクターで選んだ音色とは関係ありません。
鍵盤を同時に8音押さえても7音しか出ない。	鍵盤の音は、同時に最高7音までしか出ないようにになっています。また、オートベースコード使用時はメロディー部で同時に3音までしか出ません。(デュエット使用時は2音。)
リズムの音が出ない。	①スタートボタンが押されていない。 ②シンクロスタートONで、オートベースコード鍵盤部を押していない。 ③リズム音量が最小になっている。
オートベースコードの音が出ない。 またリズムにのらない。	①オフのボタンがONになっている。 ②リズムをスタートさせていない。 ③オートベースコード用鍵盤部を押していない。 ④オートベースコード用音量が最小になっている。 ⑤プレイカード再生中はオートベースコードは使用できません。
①音がひずむ。 ②パイロットランプが点滅する。	すべての音量を最大にするとひずむことがあります。 電池がなくなりかけています。すべて新しい電池と取りかえてください。
ミュージックプログラマーの記憶と再生がストップしない。	レコードまたはプレイバックは、リズムのストップやシンクロスタートのボタンでは止まりません。プレイカードシステムのストップ(ピンク)のボタンを押してください。

●プレイカードシステムを使用する場合

現象	原因と解決法
曲が再生されない。	カードリーダーが、データを完全に読みとっていません。もう一度セットしなおして、インジケータランプの点灯と信号音を確認してください。
伴奏がきこえない。	オートベースコード用音量が最小になっている。 音量を上げましょう。
リズム音がきこえない。	リズム用音量が最小になっている。音量を上げましょう。
本体でセットした音色やリズムで曲が再生されない。	曲の再生前のリズム、音色は無効です。カードそう入後のみ音色やリズムを変えることができます。
演奏しているとき、鍵盤を同時に2音押しても1音しかでない。	プレイカードシステムで演奏しているとき、鍵盤では同時に1音までしかでないようになっています。先に押さえた1音が優先されます。(デュエット使用時には、発音しません。)
プレイで演奏しているとき、鍵盤で鳴らした音色が変化してきこえる。	鍵盤を押すタイミングによって、一瞬音色が変化してきこえることがあります。ご心配ありません。

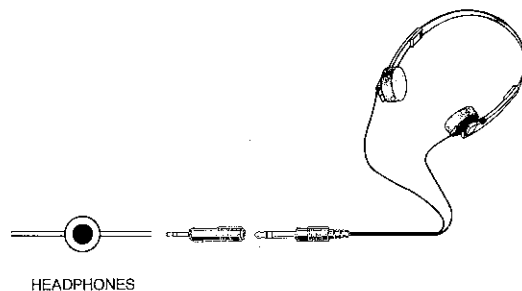
付属端子とオプション

PCS-500の本体裏側には、図のような付属端子がついています。これらを活用すれば、楽しさはいっそう広がります。(ヘッドホン端子は左前にあります。)



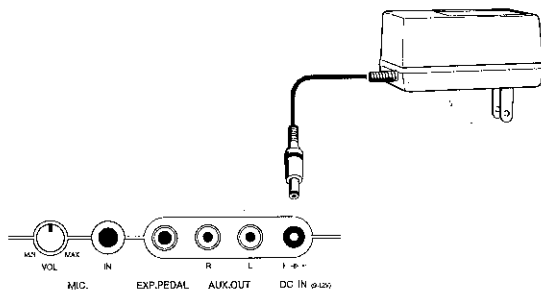
① HEADPHONES 端子

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。ヘッドホンを使うと、本体のスピーカーからは音が出ませんから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。



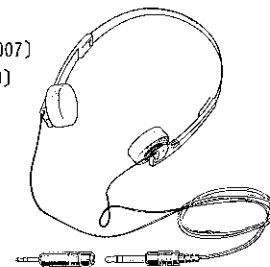
② DC IN(9~12V) 端子

家庭用コンセントやカーバッテリー(シガーライターソケット)から電源をとるときには、この端子を使います。専用のアダプターを接続してください。



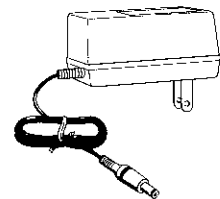
オプション(別売)

- ライトウエイトヘッドホン[YHL-007][YH-50]



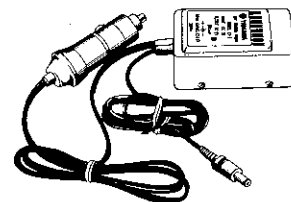
- 電源アダプター[PA-1]

AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器です。本体の[DC IN9-12V]へ電源を供給します。



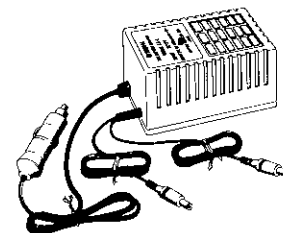
- カーアダプター[CA-1]

車のシガーライターソケットから本体へ電源を供給します。このアダプターは、異常電圧から本体を保護するための回路を内蔵しています。



- カーアダプター[CA-2]

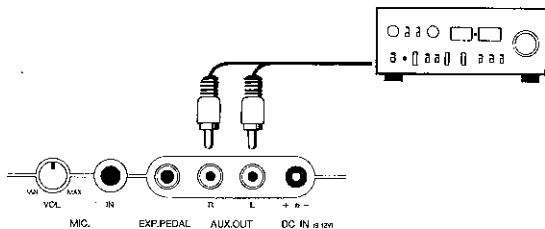
接続コードが2つに分かれているタイプで、本体と同時にトーンボックスなどへの電源が取りだせます。



③AUX.OUT R・L端子

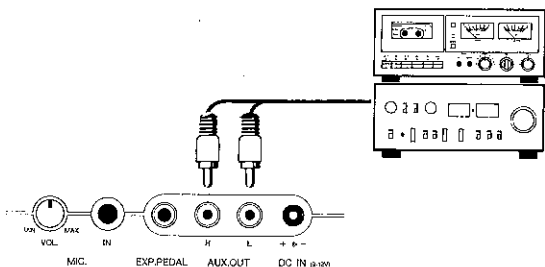
A.より豊かな音量で。

PCS-500は、内蔵したスピーカーでも演奏が楽しめますが、出力の大きなスピーカーに接続すると、ライブ感覚あふれる、迫力のサウンドがお楽しみいただけます。このAUX.OUT端子を使って、ステレオやアンプなどのLINE INジャックに接続してください。



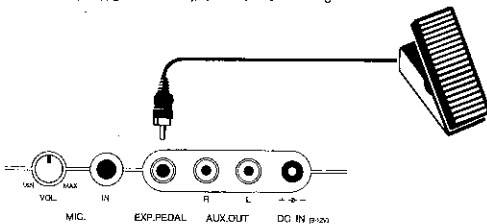
B.演奏を録音

PCS-500の演奏を録音したいときは、このAUX.OUT端子を使って、テープデッキのLINE INジャックに接続してください。録音レベルは、テープデッキで調整できます。



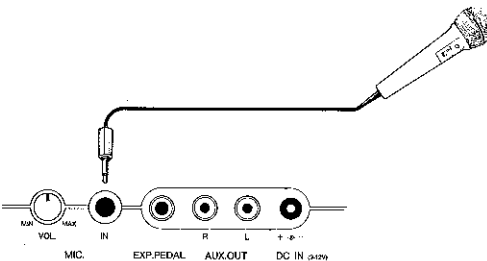
④EXP.PEDAL端子

エクスプレッションペダルは、演奏中、足で自由に音量を調節することができるペダルです。このEXP.PEDAL端子に接続してお使いください。



⑤MIC.IN端子

マイクを接続する端子です。プレイカードをバックに歌うとき、より楽しさが広がります。

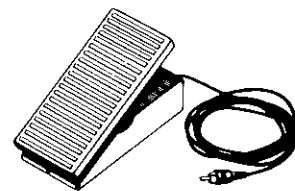


●マイクの音量は、左端のマイクボリュームのつまみで調節することができます。MAX側に回すほど大きくなります。(大きすぎるとハウリングが出る場合があります。)

オプション(別売)

●エクスプレッションペダル (EP-1)

音量を自由にコントロールできるフットペダルです。EP-1を取り付けることで、表現力をいっそう幅広いものにすることができます。



★ピッチコントロール

本体の裏側には、音程を微妙に調整できるピッチコントロールがついています。キャップをとって、小型マイナスドライバーでまわしてください。

仕様

■鍵盤

一段鍵盤49鍵(C1~C5)

■オーケストラ

〈音色セクター〉
オルガン／ピッコロ
トランペット／バイオリン
サクソホン／オーボエ
ピアノ／ハープシコード
ギター／ミュージックボックス
上下切り替えスイッチ
〈音色コントロール〉
ステレオシンフォニック
サスティン

■リズム

〈リズムセクター〉
ディスコ／16ビート
ジャズロック／ボサノバ
ルンバ／サンバ
スイング／スローロック
マーチ／ワルツ
上下切り替えスイッチ
〈リズムコントロール〉
シンクロスタート
スタート／フィルイン
ストップ
リズム・ボリューム
テンポ
テンポランプ

■オートベースコード

オフ
シングルフィンガー
フィンガード
オートベースコード・ボリューム
バリエーション
デュエット

■ミュージックプログラマー

レコード
プレイバック

■プレイカードシステム

オートプレイ
フリーテンポ
メロディーキャンセル
フレーズリピート
ストップ
ランプキャンセル
鍵盤インジケーターランプ
プレイカード入力ヘッド

■メインコントロール

パワースイッチ
パイロットランプ
マスターボリューム
トランスポーター
ピッチコントロール
マイクボリューム

■付属端子

HEADPHONES端子
DC IN(9-12V)端子
AUX OUT L端子
AUX OUT R端子
EXP. PEDAL端子
MIC. IN端子

■メインアンプ

2W×2(インピーダンス8Ω)

■スピーカー

9cm×2(インピーダンス8Ω)

■定格電源電圧

DC9V：単2乾電池6個
電源アダプター(PA-1)
カーアダプター(CA-1)

■消費電力

電源アダプター使用時6W
電池使用時2.5W
電池寿命 通常演奏で
連続8時間以上

■寸法・外装

間口 83.8cm
奥行 21.5cm
高さ 6.1cm
重量 3.7kg(電池を含まず)
本体材質 スチロール樹脂
仕上げ アクリルラッカー塗装

■付属品

単2乾電池6個
プレイカード18枚
クリーニングカード1枚
和文シート

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へ直接お申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1カ年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)

■保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。また勤めて昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしなさいませんように)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔修理受付および修理品お預り〕

東京電音サービスセンター	☎(044)434-3100 〒211 川崎市中原区木月1184
新潟電音サービスステーション	☎(0252)43-4321 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
大阪電音サービスセンター	☎(06)877-5262 〒565 吹田市新青屋下1-16 千里丘センター内
四国電音サービスステーション	☎(0878)51-7777 (0878)22-3045 〒760 高松市丸亀町8-7 高松店内
名古屋電音サービスセンター	☎(052)652-2230 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター
九州電音サービスセンター	☎(092)472-2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
広島電音サービスセンター	☎(082)874-3787 〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3
北海道電音サービスセンター	☎(011)781-3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3
仙台電音サービスセンター	☎(0222)36-0249 〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
浜松電音サービスセンター	☎(0534)56-9211 〒432 浜松市東伊場2-13-12

〔本 社〕

営業技術課 電音サービスセンター ☎(0534)65-1111
〒430 浜松市中沢町10-1

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

本社／〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL.03(572)3111

大阪支店／〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館
TEL.06(251)1111

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5141

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2151

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL.011(512)6113

仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL.0222(22)6141

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3744

浜松支店／〒430 浜松市鍛冶町321-6
TEL.0534(54)4116

